

豊かな感性 優しい言葉 嬉しいです

「校長先生は子どもの頃、何になりたかった？ ぼくはドッジボールの選手かウルトラマンだな！」

「カナヘビが脱皮するよ。見て見て。カナヘビは脱皮に失敗すると死んじゃうんだよ。」

（桑の実を取ってパクッと食べた子がニコッとして）「桑の実はね。甘くてすっぱいんだよ」

（池で糸トンボを捕まえた子が）

「初めて手でつかまえた！

きれいな青い色だね！

池へかえしてあげなきゃ。」



（雨上がり、水たまりの中を通った子が）

「わー、みそ汁の中を通ったみたい！」

（1年生が「を」を勉強していました。）

「3画目が「と」みたい。」

「1画目と2画目は「ち」に似てるね。」

「先生の字、お手本みたい！」

「（担任）ありがとう。」

（温かな雰囲気の中、書く練習に入りました。）

子どもたちの感性のすばらしさを感じます。子どもたちの素敵な言葉に出会うと嬉しくなります。

先日、校長講話がありました。本校の学校目標『花とみどりと笑顔の学校』にちなんで、北小の敷地内で4月～6月に咲いている花を写真に撮り紹介しました。

しかし、当日までに名前の分からない花が3つありました。「これは、まだ花の名前が分からないんです。」と紹介。

校長講話の後、「おばあちゃんが花の名前に詳しいから、葉っぱが紫の花の写真ください。」という嬉しい言葉をかけてくれた子がいました。写真をプリントアウトして渡すと、次の日お手紙を渡してくれました。『オキザリス』花の名前がわかりました。

校長室に遊びに来た子が「（花の名前を）一緒に調べよう！」とインターネットで一緒に探してくれました。また、「花の名前を調べるアプリがあるから、スマホにアプリを入れて写真を撮ればいいんだよ」と教えてくれた子もいました。3つとも名前を調べることができました。

